

# 浦幌町における蝶類の出現期

## —特にジャノメチョウ科について—

円子紳一

▼はじめに 北海道で採集されたジャノメチョウ科は15種類であるが、1955年10月上川郡神楽町で採集されたウスイロコノマチョウは迷蝶で、土着種は14種類となる。

キマダラモドキ、ヒメジャノメは渡島半島、ツマジロウラジャノメは札幌（定山渓）・十勝（広尾・八千代・音調津）、クモマベニヒカゲは利尻島・大雪山塊・十勝ニペソツ、天然記念物のダイセツタカネヒカゲはその名の通り大雪山塊にそれぞれ生息している。

浦幌町ではTable 1 のとおり8種類が確認されている。キマダラヒカゲについては、近年サトキマダラヒカゲとヤマキマダラヒカゲの2種に区別されているが、形態的に決定的な区別点がないので、ここでは1種として扱う。

また、ベニヒカゲは全道的に分布が広いとされているが、浦幌・本別・足寄の十勝東北部では未確認であり、これからの調査に期待したい。

### ▼ジャノメチョウ

*Minois dryas bipunctatus* Motschulsky



採集地帯 富

採集年月日 1973.8.6

採集者 円子紳一

浦幌町郷土博物館所蔵

年1回の発生。東京周辺では7月上旬から発生

9月末まで生き残ることであるが、浦幌町において筆者が確認しているのは、1973年9月9日の一例を除いて全て8月に集中している。

### ▼ウラジャノメ

*Lopinga achine achinoides* Butler



採集地 万 年

採集年月日 1971.7.10

採集者 円子紳一

浦幌町郷土博物館所蔵

年1回の発生。7月がその最盛期。北海道では洞爺湖が西限といわれ、主に道東に分布するが产地は少ないとされているが、浦幌町では発生期にかなり採集することができる。

### ▼オオヒカゲ

*Ninguta schrenckii menalcas* Fruhstorfer



採集地 帯 富

採集年月日 1976.8.15

採集者 円子紳一

浦幌町郷土博物館所蔵

年1回の発生、8月上・中旬が出現最盛期。日本産ジャノメチョウ科の中で最大の種でその発生期はジャノメチョウとほぼ同じである。早いものは7月上旬から現れる。

種類	月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	越冬態
ヒメウラナミジャノメ								5令幼虫
ジャノメチョウ								1令幼虫
ウラジャノメ			-----	-----				4令幼虫
シロオビヒカゲ			---					3~4令幼虫
クロヒカゲ			---					4令幼虫
オオヒカゲ			-----					2~3令幼虫
キマダラヒカゲ		---						蛹
ヒメキマダラヒカゲ					---			幼虫

Table 1 ジャノメチョウ科の出現期

## ▼シロオビヒメヒカゲ

*Coenonympha hero neoperseis* Fruhstorfer

採集地 常 豊

採集年月日 1964. 6. 7

採集者 阿部 宏

浦幌町郷土博物館所蔵

北海道特産種。年1回発生で6月上旬から7月中旬。道東での盛期が6月中～下旬なのに対し、より南の定山溪で7月中旬が盛期となり、普通は温暖な地ほど発生が早まるのだが、本種では逆になっているのはおもしろい現象である。

## ▼ヒメウラナミジャノメ

*Ypthima argus* Butler

採集地 常 豊

採集年月日 1964. 6. 7

採集者 阿部 宏

浦幌町郷土博物館所蔵

北海道での発生は6月中旬から7月中旬とされているが、道南では稀に2化が発生することも知られている。浦幌町では6月上旬から8月上旬までと発生期間にかなりの幅があるので、2化の可能性も考えられるが、Table 1は1971年から1976年までの記録を連ねたものであり、その証明には単年度において6月から8月の間の発生を確認することが必要と考えられる。

## ▼クロヒカゲ

*Lethe diana* Butler

採集地 千 才

採集年月日 1971. 6. 26

採集者 円子紳一

浦幌町郷土博物館所蔵

年1回の発生で6月下旬から8月中旬。ときには部分的な第2化と思われる個体が9月中・下旬に見られる。東京周辺では3回発生。さらに暖地（九州北部の平地等）では3～4回の発生と考えられている。北海道でも部分的な第2化が生ずることが知られているので、浦幌町においても年によっては第2化を生ずるのは確実と思われる。

## ▼キマダラヒカゲ

*Neope goschkevitschii* Mémétriés

採集地 帯 富

採集年月日 1973. 6. 13

採集者 円子紳一

浦幌町郷土博物館所蔵

寒冷地では6月～8月の年1回発生とされているが、浦幌町では5月中旬からその姿を見ることができ、年2化の可能性がある。本種はジャノメチョウ科の中で最も早く発生する。

## ▼ヒメキマダラヒカゲ

*Harima callipteris* Butler

採集地 帯 富

採集年月日 1976. 8. 15

採集者 円子紳一

浦幌町郷土博物館所蔵

年1化。筆者が採集したのは、1976年8月15日の1頭だけであるので考察のしようがないが、松本尚志の談によればかなり多産しているとのことで今後の調査に期待したい。

▼おわりに アゲハチョウ科・シロチョウ科について3回目の考察であるが、データ不足であることを痛感させられた。毎年の事であるが、今年も休日の全てを蝶の採集にと思うのであるが、どこまで出来ることやら不安である。

最後に、ヒメキマダラヒカゲ等について、種々ご教示頂いた松本尚志氏に感謝申し上げる。

(浦幌町農業協同組合農産部)

## 参考文献

白水 隆 (1971) 原色図鑑「日本の蝶」

藤岡知夫 (1972) 図説日本の蝶

松本尚志 (1975) 浦幌町における蝶類の分布、浦幌町郷土博物館報告 6

円子紳一 (1976 a) 浦幌町郷土博物館所蔵の阿部宏氏の蝶標本、浦幌町郷土博物館報告 7

——— (1976 b) 浦幌町における蝶類の出現期、浦幌町郷土博物館報告 7

——— (1977) 帯富で採集したヒメキマダラヒカゲ、浦幌町郷土博物館報告 9